



2009年中国語・韓国語教師研修の実施報告

2009年8月

財団法人国際文化フォーラム (TjF)

1. 事業名称

「2009 年高等学校中国語・韓国語教師研修」

※8月1日および2日は、中国語、韓国語に限らず、それ以外の外国語を担当している高等学校等の教員も対象としました。2日間のみ参加者には「外国語担当教員セミナー」の名称を使用しました。

2. 事業実施にいたる背景

財団法人国際文化フォーラム（TJF）は、世界の若い世代間のつながりの実現をめざして、国内外の小中高校生への外国語教育および多様な文化の理解を促進する事業に取り組んでまいりました。その中で日本の若い世代が21世紀を生きていく上で、隣人のことばである、中国語や韓国語を学ぶ必要があると考え、その教育環境の整備に力をいれてきました。

これまでも毎年、高等学校の中国語教師研修を実施してきましたが、2007年3月に発行した高等学校の中国語教育のための「学習のめやす」を全国の高等学校の韓国語教師に紹介していくなかで、真に「学習のめやす」を共有し普及させていくためには、「学習のめやす」を支えている、コミュニケーション・アプローチをはじめ、内容重視型・学習者参加型・学習活動中心といった、外国語教育の目標・内容・方法をあらためて基本から取り上げる研修が必要であることがわかってきました。

そこで、本年より、学習した外国語を実際に使えるようになることをめざして、中国語や韓国語教育の具体的な目標を設定し、目標を達成するための内容や方法に関する基本的な考え方や理論を参加者間で共有したうえで、高等学校の中国語や韓国語の実際の授業づくりに取り組む研修をスタートさせることとしました。

3. 事業目的

- (1)日本の高等学校における外国語教育の目標を確認し、目標達成のための教育内容や教育方法を紹介するとともに、それらの背景にある考え方や理論を導入する。
- (2)日本の高等学校における中国語および韓国語の「学習のめやす」を研修生間で共有化し、それを実際に活用して授業を設計していく具体的方法をグループワークで探る。
- (3)隣国・隣人のことばである中国語および韓国語教育の重要性を踏まえ、それぞれの固有性を重視しながらも双方で共有できる部分に焦点をあてて連携することによって、教育の質的向上を図る。
- (4)ことばの垣根を越えて、日本の高等学校の外国語教師間のネットワークを形成する。特に、中国語および韓国語の教師間ネットワークを築くことをめざす。

4. 事業概要

■実施期間：2009年8月1日（土）～8月5日（水）

<別紙1:研修日程・内容をご参照ください>

■会 場：

桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス（神奈川県相模原市）

■実施機関

主 催： 財団法人国際文化フォーラム

共 催： 桜美林大学

特別共催： 駐日中国大使館教育処、駐日韓国大使館 韓国文化院

後 援： 文部科学省、駐日韓国文化院 世宗学堂

助 成： （財）かめのり財団

■講 師

前半 2 日間の講師には、外国語教育の先進地域である米国のナショナルスタンダードズの日本語作成委員長を務め、現在、全米日本語教師会の会長である、カリフォルニア大学サンディエゴ校の當作靖彦教授と、日本の英語教育界をリードする上智大学の吉田研作教授をお招きしました。

後半 3 日間は、主任講師を當作教授にお願いし、全体を統括していただくとともに、中国語および韓国語別に講師陣を編成しました。主に、「学習のめやす」のプロジェクト、高校の中国語や韓国語教員研修、そして高校生向け教科書の編集制作ほか、TJF の事業でこれまでつながりのある先生方をお願いしました。

外国語教育：	當作靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校教授	【主任講師】
	吉田研作	上智大学外国語学部教授	
中国語教育：	植村麻紀子	神田外語大学専任講師	
	胡玉華	神戸市外国語大学講師	
	山崎直樹	関西大学教授	【副主任講師】
韓国語教育：	金孝卿	国際交流基金日本語国際センター専任講師	【副主任講師】
	長谷川由起子	九州産業大学准教授	
	阪堂千津子	東京外国語大学等非常勤講師	(敬称略・五十音順)

■参加者

○ 5 日間全体の参加延べ人数 106 名（うち中国語教師 43 名，韓国語教師 29 名）

○ 後半 3 日間の参加延べ人数 46 名（うち中国語教師 27 名，韓国語教師 21 名）

* 両科目を担当する教師 2 名

5. 研修の内容

本研修は、

- (1) 中国語教師と韓国語教師を対象とする研修を初めて合同で行ったこと
- (2) 外国語教育についての講義を中国語や韓国語だけでなくそのほかの外国語の教師も対象にし
高校の外国語教師が一同に会する機会をつくったこと
- (3) 外国語教育のあり方について考える理論とともに授業案づくりに取り組み実践的な内容も重視したこと

に特徴があったといえる。

前半 2 日間は、100 名近い外国語教師が参加し、日本の初等中等教育における外国語教育の目標と課題、効果的な外国語学習、外国語教育における文化・言語能力の評価、コミュニケーション能力養成のための外国語教育カリキュラムの作成などについて講義が行われました。後半 3 日間は、高校で中国語および韓国語を担当する延べ 46 名の教師を対象にしぼり、前半 2 日間の講義を受け、授業案を作成するという実践的なカリキュラムを組みました。

中国語、韓国語別に 5 つのグループに分かれ、各言語 5 名の講師陣の指導のもと、グループごとに TJF が作成に取り組んでいる高等学校の中国語と韓国語の「学習のめやす」を活用した、具体的な授業案づくりに取り組み、最終日にはポスターセッションによる成果発表・検討を行いました。

グループワークを初めて体験する人には戸惑いもあったようですが、日頃孤独な作業となりがちな授業案づくりを仲間との協働作業で行うとともに、授業案に対して厳しくも建設的な意見交換ができ、参加者には好評でした。研修の詳しい日程および内容については別紙 1 を参照してください。

6. 事業の成果

5 日間の研修を通して、文法規則などを学習することを授業の最終目的とするのではなく、食、買い物、社会といったテーマ（学習内容）を据え、どういったコミュニケーション活動ができるようになるかという能力目標を設定した上で、テーマの内容に関する言語項目を入れていくという教育方法、更にそういった教育方法の背景にある考え方や理論の概要等を参加者間で共有できたことが、今回の研修の最大の成果だったと思います。そのような教育方法を取り入れ、「学習のめやす」を活用しながら、授業を設計していく具体的な方法について、グループワークを通して考える機会を提供することもできました。

また、中国語と韓国語を中心に、外国語教育を担当する高等学校の教師が一堂に会し、ことばの垣根を越えて外国語教師が、人としての成長を促す外国語教育のあり方について共に考え、外国語教師のネットワークを形成することができたことも大きな成果でした。

研修終了後のアンケートにもそのことが表れています。以下は、アンケートに見られる参加者の研修に対する評価とコメントです。

研修全体に対する評価

●1-2 日参加者：回収 37

- ・セミナー全体に対して

：大変満足－13 名、満足－19 名、無回答－5 名

●3-5 日参加者：回収 35

- ・今回の研修で得たものはあったか

：あった－35 名、なかった－0 名

- ・今後も同様の研修に参加したいと思うか

：思う－32 名、思わない－2 名（時間とお金の問題）、内容による－1 名

参加者から寄せられたコメント

- ・学ぶことが多かった、目からうろこの連続だった、授業に大変役に立つ、講師の先生が素晴らしかった、面白く講義を聞くことができた
- ・もっとがんばらなければいけないと思った、外国語の授業の意義について考えさせられた、勇気づけられた
- ・目標を設定すること・活動にはいつも意味を持たせること・学習の思考力をあげる授業をすることの重要性を感じた
- ・具体的な授業プランの作り方・効果的な外国語学習、文化の導入方法が参考になった
- ・韓国語の先生と親しくなれてよかった、韓国語の方のワークグループの結果や授業案をみたかった、こんなにがんばっている先生がいると知って勇気づけられた

7. 今後の課題

今回は、初めての試みだったこともあり、研修終了後に参加者や講師からさまざまな課題も挙げられました。

参加者からは、「講義内容が多すぎて消化しきれなかった」、「使われた用語が難しく結果的に講義の内容を十分に理解できなかった」、「具体例を提示しながらゆっくり話を聞かせてほしかった」などのコメントが挙げられました。

講師からは、「5日間という研修期間は適切か」、「今年は、①語彙・文法を教えるための5×5アプローチ、②主題中心の授業と二つのテーマがあったが、グループワークで取り組むテーマは、ひとつでよいのではないか」、「講義とグループワークは日を隔てずに実施した方が効果的ではないか」などの意見をいただきました。

今年は、研修に向けての講師対象のワークショップを研修直前に実施しましたが、その時期と内容についても再検討してほしいとの要望をいただきました。

以上の課題について、カリキュラムの見直し、用語集の作成、講師対象のワークショップの早期開催などを検討し解決を図り、来年の研修をより充実させたいと考えています。

以上

研修日程・内容

敬称略・五十音順

	8月1日(土)	8月2日(日)
1 時限 9:00-10:30	<p>高等学校の外国語教育に問われているもの (吉田研作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語教育の目標とは ・生徒がコミュニケーション能力を身につけるためにクラスですべきこと 	<p>学習者中心の教室活動 (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での教師、学習者、教材の役割 ・個々の学習者の能力を引き出す学習活動 ・学習プロセスを助ける教室活動の流れ
2 時限 10:45-12:15	<p>コミュニケーションとは何か (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間がコミュニケーションする理由 ・第二言語習得理論の研究が私たちに教えてくれること 	<p>外国語教育と文化について (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションにおける文化の役割 ・文化リテラシーを身につけるための外国語教育 ・内容中心の外国語教育
昼食		
3 時限 13:30-15:00	<p>新しい能力を身につけるとは何か (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人が新しい能力を身につけることの意味 ・私たちが新しい能力を身に着ける方(学習理論、脳の研究) など 	<p>外国語教育における評価とは (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の果たす役割 ・効果的な形成的評価と統括的評価 ・レベル間、プログラム間のアーティキュレーション
4 時限 15:15-16:45	<p>目標設定から授業まで (當作靖彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定→カリキュラム作成→授業案 ・カリキュラムのバックワードデザイン 	<p>「学習のめやす」を活用する (藤井達也、山下誠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のめやす」とは ・「学習のめやす」を使った授業づくり(目標設定からレッスンプランプランまで)
	<p>* 授業に役立つ T J F のウェブ紹介 (17:00-18:00・TJF スタッフ)</p>	<p>セミナー参加者交流会 (参加無料) (17:30-19:30) (於：国民生活センター食堂)</p>

1 時限=90 分	8 月 3 日 (月)	8 月 4 日(火)	8 月 5 日(水)
1 時限 9:00-10:30	授業づくり-I オリエンテーション 中韓合同 【主任講師】 當作	授業づくり-I (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	4-7 授業づくり-II (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、阪堂
2 時限 10:45-12:15	授業づくり-I (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	授業づくり-I (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	授業づくり-II (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、阪堂
昼食			
3 時限 13:30-15:00	授業づくり-I (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	授業づくり-I ポスター発表 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	授業づくり-II ポスター発表 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、阪堂
4 時限 15:15-16:45	授業づくり-I (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、長谷川、阪堂	授業づくり-II (グループワーク) 【主任講師】 當作 【中国語】 植村、胡、山崎 【韓国語】 金、阪堂	ふりかえり 【主任講師】 當作
17:00-18:30	*桜美林大学キャンパス ツアー	*JAKEHS の活動紹介	

研修のひとこま

高等学校等で外国語教育に携わる先生の教育現場は、教科指導以外の雑務が膨大で、指導改善に取り組むことが非常に難しい環境にあります。そのような状況下にあっても教育に情熱をもって取り組む先生方に多数お集まりいただきました。

8月1日-2日 講義



吉田研作教授：英語教育を中心に日本の初等中等教育における外国語教育の目標を、ご紹介いただきました。



當作靖彦教授：今回の主任講師。実践的・先進的なお話をわかりやすくご紹介いただきました。



熱心に講師の話に耳を傾ける研修生。



韓国語ばかりでなく、さまざまな外国語の担当教師が参加されました。

韓国語と中国語を担当される先生を中心に、外国語教育を担当される先生方が一同に会し、共に外国語教育の未来について考えた歴史的な会合となりました。この意義を多くの参加者が共有しました。

8月2日 交流会



駐日本国大韓民国大使館 韓国文化院 清水中一氏
授業を見学していただくとともに、交流会では心温まる
メッセージを参加者に伝えていただきました。



桜美林大学 佐藤東洋士 学長
今回の研修を高く評価してくださり、来年度
以降の共催にも前向きなご発言をいただきま
した。



韓国語と中国語それぞれの教室に分かれ、研修で得た知識を授業実践につなぐ作業にグループで取り組み、その成果を発表しました。この活動を通して、新たな教育方法に対する理解を深めるとともに、同じ韓国語教育に携わる仲間との信頼関係が築かれ、ネットワークが構築されました。ポスターセッションを体験した先生からは好評の声が多数届けられました。

8月3日-5日 グループワーク・ポスター発表



韓国語グループ作業風景



ポスター発表風景

研修生からのアンケート結果（概況報告）

1. 研修全体に対するコメント

● 1-2日参加者：回収 37名

セミナー全体に対して：大変満足 13、満足 19、無回答 5

● 3-5日参加者：回収 35名

今回の研修で得たものはあったか：

あった 35名、なかった 0名

今後も同様の研修に参加したいと思うか：

思う 32名、思わない 2名(時間とお金の問題)、内容による 1名

2. アンケートに書かれていた研修全体に対する印象（抜粋）

- ▶ 学ぶことが多かった、目からうろこの連続だった、授業に大変や役に立つ、講師の先生が素晴らしかった、面白く講義をきくことができた、
- ▶ 中身が濃く、刺激が大きすぎる内容、詰め込みで消化できなかった部分がある、もう少しゆっくりやってくれたらいい、もう一度ゆっくり聴きたい
- ▶ もっとがんばらなければいけないと思った、外国語の授業の意義について考えさせられた、勇気づけられた
- ▶ 目標を設定すること・活動にはいつも意味をもたせること・学習者の思考力をあげる授業をすることの重要性を感じた
- ▶ 具体的な授業プランの作り方・効果的な外国語学習、文化の導入方法が最も参考になった
- ▶ 評価の部分をもっと聞きたかった、具体的な授業（活動のステップ）の作り方をワーク形式なり模擬授業形式なりでやってほしかった、用語がわかりにくかった
- ▶ 中国語（韓国語）の先生と親しくなれてよかった、中国語（韓国語）の方のワークグループの結果や授業案をみたかった、こんなにがんばっている先生がいると知って勇気づけられた
- ▶ 今後も言語の壁を越えて優秀な先生方の話をききたい

特に 3-5 日の研修について

- ▶ ポスターセッション発表のデータがほしい
- ▶ セッション発表についてのコメントがほしい
- ▶ 学習のめやすの活用法が具体化した
- ▶ 実際に授業づくりをして、前半の内容を実感することができた

以上